



大月 基弘 先生

略歴

- 1999年 広島大学歯学部歯学科卒業
- 1999年 大阪大学歯学部付属病院勤務
- 2002年 赤野歯科医院勤務 分院長歴任
- 2012年 スウェーデン王立イエテボリ大学歯周病科大学院専門医課程修了
ヨーロッパ歯周病専門医・インプラント専門医（European federation of periodontology 認定）
- 2013年 DUO specialists dental clinic 院長
- 2013年 日本臨床歯周病学会・歯周病認定医
- 2014年 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野 所属
- 2016年 日本臨床歯周病学会・歯周インプラント認定医
- 2017年 大阪大学大学院歯学研究科 歯学博士

“実践的” 超音波スケーラー

大阪府開業
大月 基弘

歯科衛生士ならびに歯科医師の両者にとって超音波スケーラーといえは歯周治療に欠かせないツールの一つとなっている。一昔前、マニュアルキュレットが中心であった非外科的歯周治療が、超音波器具を中心として行われるようになったことは、さまざまな科学的根拠が積み重なったことによる。古くは、歯石や内毒素がセメント質の内部まで入り込むため、それを除去しないと治らないという考えがあり、そこにマニュアルキュレット偏重主義があった。昔の歯周病の教科書を紐解くと、歯根が削られリングがかじられたようになっている写真を目にすることがあるが、そういった考えのもと歯周治療が行われた結果である。しかし、歯根表面の内毒素を含めたバイオフィルムを除去することで、十分な治療が得られることが多くの論文で示されたことにより、無駄なセメント質の除去は慎むべきという現在の考え方に徐々に移行していった。実際、マニュアルキュレットと超音波スケーラーの歯周炎治療効果は同等であり、効率の良さと不快感の軽減効果は超音波スケーラーに軍配があがる。

しかし、それらのエビデンスや生体の治療を考えた時、超音波スケーラーをどれくらい理解して使用しているだろうか。歯科衛生士や歯科医師にヒアリングをしたところ、その多くは特別なトレーニングを受けることなく、なんとなく使用している人が多い。これは非常にもったいないことである。各種レーザーやエアアブレーションといった先端技術を応用した治療に傾倒するのも良いが、今手元にある超音波スケーラーの使い方をよく理解することで、明日の患者に生きる知識を見直すことも重要であろう。基本に立ち返り、“治療のために触るべき場所”、“治療の必要がなく触ってはいけない場所”、“生体と細菌の均衡を維持するために触る場所”を理解した上で、超音波スケーラーを握っていただければ、その高い効率性をより実感していただけると思う。また正しい使用方法を知っていただくことにより、歯周病の治療を導くことに加え、無駄な力を使用せず、正しい姿勢で治療していただくことで日々の自分の身体への負担も軽減できる。マニュアルキュレットは歯周治療の必需品であり、手放すことはできないが、やはりある程度の力をかけ、スケーリングとルートプレーニングを行うこととなる。その時間を減らし、力をいれる必要のない超音波スケーラーをうまく治療に織り交ぜることが現在の歯周治療の本流と言えるであろう。

当日は、基本的知識の確認と超音波スケーラーを用いた、日本歯周病学会としては初めての試みとなるハンズオン形式のセミナーを行い、明日に役立つ知識と経験を得ていただくことを意図している。歯周治療における知識の確認、アップデート、そして超音波スケーラーの使用方法を見直す良い機会をご提供できればと考えている。